

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	武雄市立東川登小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	「かしこく」・・・校内研究の議論の場を通して、教職員の授業改善への意識が高まっている。インプット型の学びからアウトプット型の学びへの過渡期となる1年であった。「やさしく」・・・あいさつの取組を通して、児童が自身のあいさつの実態を客観的にとらえることができるようになったことは、次のステップにつながる成果である。「たくましく」・・・家庭でのテレビやゲーム、SNSの問題への取組として、健康面や学力面と合わせて、児童がしているオンラインゲームの実態を保護者に知ってもらう取組もできた。次年度は、児童の変容が目に見える形で、成果を上げなければならない。「自信」と「主体性」をキーワードとして以下のことに取り組んでいく。①児童の主体的な活動を重視した学習過程(単元構成)の工夫。②地域教育資源を有効活用した生活科・総合的な学習の時間の充実。(相手意識と目的意識を明確にして、表現活動やコミュニケーションを取り入れた学習) ③あいさつや言葉遣いの指導の年間計画と振り返り活動の充実。④児童を信じて任せる出番・役割・承認を意識した教育活動の工夫(児童会活動、学校行事等)
---------------	---

2 学校教育目標	生き抜く力の育成「やさしく かしこく たくましく」 ～自ら進んで学び 心豊かに たくましく生きる子どもの育成～ 【めざす子ども像】 ○人の気持ちに寄り添うことができる子ども ○「ひと もの こと」にかかわって学び、進んで学習する子ども ○望ましい生活習慣を身に付け、元気な心と体ががんばる子ども
----------	--

3 本年度の重点目標	① 国語科を中心とした活気ある授業の創造(主体的・対話的で深い学びの実現、地域と関連させた単元構成の工夫、タブレットや電子黒板等ICTの効果的な活用) ② 子どもと共に活躍する、子どもが活躍する場の充実(花まるタイムの充実、委員会や縦割り活動等の充実、子どもの発表の場づくりと指導)
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目									
重点取組	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研究等により取組の促進を図る。	A	・マイプランの一回目の中間評価では、80%の教師が目標を達成したように感じられる。これからも定期的に中間評価を行い、実践の振り返りをするともに、次へのステップの足掛かりとし、日々の授業実践の振り返りを大切にしたい。	A	・マイプランの提出率100%で、担任一人一人が実践した授業の振り返りを行うことができ、児童にとって分かりやすい授業作りに取り組みすることができた。	A	・マイプランが100%提出できたことは素晴らしい。今後も、児童の学力向上のために頑張ってもらいたい。
	○国語科を中心とした活気ある授業づくりの実践	○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができる」と回答した児童90%以上	・「授業づくりのステップ1,2,3Vol2」を踏まえ、日常の授業で、子どもと子どもの考えをつなぎ、子ども同士の交流を通して「話し合う活動」を進める。 ・授業評価シートの活用。	B	・良好な回答をしている児童は、90%を超えており、おおむね達成したと考えられる。これからの授業研究会を通じ、より向上させていきたい。 ・子どもと子どもの考えをつなぐ手立ては不十分な点が見られ、今後の共通理解・共通実践の必要性を感じる。その際には、授業評価シートの活用を考えている。	B	・アンケート結果は85.4%で、目標達成には至らなかったが、校内研究や日々の実践を共有することで、子ども同士が意見を交流したり、つなぐ場面を意識した授業づくりを提案できた。 ・継続的な振り返りの時間の確保が難しく、授業評価シートの活用ができなかった。	B	・国語科はすべての教科の基本となるので、国語を研究教科にしたのはよい。文章力の向上を目指して、暗唱なども取り入れながら国語力を育む活動を進めてほしい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける	○「相手の気持ちを考えることができる」や「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した児童90%以上	・児童会を中心としたアルミ缶回収等ボランティア活動をより主体性をもたせた取組として改善・充実を図る。 ・地域GT、保護者参加型のふれあい道徳の実践(教育フェスタ等)	B	・アンケート結果から回答率88%と若干下回ったが概ね達成できた。今後主体的に活動できるよう委員会などの「大作戦」を継続して取り組んでいく。低学年児童には、活動に積極的に参加するよう声掛けをしていく。	A	・アンケート結果から回答率が93.4%と前回の結果を上回った。委員会活動は、前期から更に知恵を出し合い目玉の活動に取り組もうと放送する姿や活動する姿が見られた。地域の人やふれあい道徳でしっかり交流できた学年は主体的で有意義な活動ができた。	A	・学校教育も大切だが、家庭教育の大切さを再度保護者に伝えてほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「学校は楽しい。」と回答した児童95%以上	・生活アンケートや教育相談週間の活用。 ・いじめ防止基本方針を周知徹底し、迅速かつ組織的対応の徹底を図る。	B	・学校評価アンケートの結果は、「学校は楽しい。」と答えている児童が91%と成果指標よりわずかに下回るが、概ね達成できた。今後は、生活アンケートや教育相談週間を実施することでいじめの早期発見、早期対応に努めていきたい。	A	・アンケート結果は、「学校は楽しい。」と答えている児童が93.8%と成果指標よりは下回るが、1学期より増えており、達成できた。生活アンケートを定期的な実施がいじめの早期発見、早期対応につながった。また、教育相談週間を実施し引き続き一人ひとりの子どもに寄り添った指導ができた。と考える。	A	・学校と家庭の連携を深め、いじめの未然防止や早期対応を継続しつつ、相談事や仲裁などぜひ育友会も活用してほしい。
	◎ふるさとを誇りに思う教育活動	○東川登町の自慢を答えることができた児童90%以上	・生活科・総合的な学習の時間・国語科等と関連させた地域の特色を生かした学習の充実を図る。	B	・児童は、アンケートで「誇りに思う」の回答数が非常に多いが、行事として実践できていない部分があり、新生活様式にのって、できる範囲で地域との交流を、手紙や作品展等で、実施していきたい。	A	・12月まで実施できていなかったが、1～4年生と6年生で、地域の講師及び関係団体の協力の下、地域の特産・名産、伝統工芸に触れ合わせることであった。東川登町の自慢を答えることができた児童は100%だった。	A	・東川登町の歴史や文化を知るフィールドワークなど、町のよさを実感できるような体験活動を仕組んでほしい。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●健康に食事は大切であると考える児童95%以上	・生活状況調査、食に関する意識調査の実施 ・保健だよりの発行	A	・早寝早起き朝ごはんについての調査の結果、朝食喫食率は98.8%であった。意識調査については、2学期に向けて計画をすすめる。 ・保健だよりを毎月発行し、早寝早起き朝ごはんの調査結果も掲載し、ごはんを食べることの大切さについて促した。	A	・早寝早起き朝ごはんの調査結果は100%と前回は上回る結果が出た。生活状況調査は食に関する調査内容が似ていることから、生活習慣はよくなっているのとは感じる。 ・保健だよりを毎月発行し、生活習慣を整えることや健康な体づくりについて情報を提供した。	A	・食生活の改善については家庭の協力が必要だ。
	○「スポーツチャレンジ」への取組を通じた体づくり	○各学年3種目以上にエントリーする	・「縦割り挑戦8の字とび」にエントリーし、年間を通じた取り組みとする。 ・各学年で年間を通して切れ目のない継続的な取組とする。	C	・新型コロナウイルスの影響で縦割り班活動ができず、スポーツチャレンジの取組はできていない。 ・スポーツチャレンジの紹介は行ったが、どのクラスも継続的な取組にまでは至っていない。	B	・下半期は、全学年スポーツチャレンジに取り組み「8の字とび」「ドッチボールラリー」では、達成賞をもらうことができた。 ・「8の字とび」は各学年の体育で継続的に取り組むことができた。「たてわりでの挑戦8の字とび」は、実施できた。しかし、スポーツチャレンジのエントリーには、至らなかった。	B	・体力向上ということにおいては、今年度は相撲大会が中止になったので来年度はできることを願っている。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	・職員一人一人の勤務状況の把握と選択制定時退勤日の推進 ・「働き方改革」のための議論の場を年間3回以上設定(改善アンケート7月1月、研修会8月)	A	・タイムカードで全職員の勤務状況の把握に努め、一人一人の勤務時間の削減につながっている。 ・働き方改革について、職員同士の議論の場を設定することをこれから計画的に取り組んでいく。	A	・毎月の業務記録の個人票をもとに、一人一人が勤務時間の縮減を意識できたことにより、時間外勤務平均時間を全職員の月平均で25時間程度に抑えることができた。 ・職員会議の折に「労働安全衛生委員会」の時間を設定し、それぞれの取組について考える場を設定した。	A	・教員の仕事の時間はいくらあっても足りないところ、勤務時間を縮減できており素晴らしい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○ICT利活用教育	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の充実	○電子黒板やタブレットを使った授業はわかりやすく回答した児童90%以上	・参観授業等で年2回以上タブレット端末を活用した授業または、プログラミング教育を実施する。 ・研修会を年間2回以上行う。	A	・良好な回答をしている児童は多く、教師の活用頻度も高いとともに、児童もICT利活用を使った授業のやり方に慣れ親しんできたことがわかる。年度後半は各学年でのプログラミング教育の実践に努めていく。	A	・電子黒板やタブレットを使った授業はわかりやすく回答した児童が多く、教師も意識的に活用することができた。プログラミング教育では、タブレットを使って学習し、どのようにプログラムをするか、試行錯誤させることで、プログラミング的思考を養うことができた。	A	・ゆくゆくは教育講演会や家庭訪問をタブレットで実施することなども検討してはどうか。
○官民一体型教育	○地域学校協同本部「花まる」タイム等の充実	○花まるタイムや地域の方とする学習は自分のためになっていると回答した児童90%以上	・学校と参加者の互恵関係を充実させる取組の工夫。	B	・新型コロナウイルス感染防止の観点から、地域の方々を活用した取組については休止している行事が多い。ただし、「花まるタイム」についてのアンケートの結果からは95%の児童が自分のためになっていると回答した。	A	・96%の児童が自分のためになっていると回答し、児童自身で成長を感じることができている。 ・コロナ感染拡大防止のために地域と連携した取組は限定的だったがお世話になっている方へ年賀状を送るなど、来年度につなげることができた。	A	・今年度はコロナのために地域支援ができなかったが、花まるタイムで地域支援が早く再開することを望んでいる。支援者で顔見知りになっているので、子ども達は地域であってもよく挨拶してくれる。また年賀状もいただいた。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に関しては、職員一人一人が児童の実態に即してマイプランを立て、目標達成のために努力することができた。国語科において、子ども同士が考えを交流したりつないでいたりする場面を設定した授業づくりに取り組めた。しかし児童のアンケートの結果を見ると目標から5ポイントほど低かった。次年度は、どの授業においても話し合う活動と振り返りの活動を取り入れ、児童の授業評価をもとに授業力向上を目指す。 ・心の教育に関しては、生活アンケートの活用等いじめの未然防止・早期対応を心がけることができた。また、学校区には歴史的価値のあるものや地域人材など教育資源が多いので、次年度は特に高学年で「ふるさとを誇りに思う教育活動」の充実を図っていく。 ・今年度の途中でタブレットが更新されたため、協働学習などできることも増えた。今後はさらに教育の質の向上を目指してICT機器活用の充実を図っていく。
----------------	---